

現計画（女川町地域公共交通網形成計画）の評価検証について

■計画の概要

- ・対象区域：女川町全域
- ・策定年度：2018年度
- ・計画期間：2019年度から2023年度までの5年間
- ・基本理念：誰もが安心して利用できる「将来まで続く公共交通ネットワーク」の実現
～まちなかと離半島部のまちづくりを支援～

・基本方針・目標：

基本方針1 将来のまちの姿を見据えた「便利」で「持続可能」な交通体系の構築

- 目標1-1 にぎわい拠点内に複数の路線が乗り入れた「生活軸」の形成を目指す
- 目標1-2 拠点に位置付けるJR女川駅等での乗継利便性の強化を目指す
- 目標1-3 少ない需要に見合った利用しやすい新たな地域公共交通の導入を目指す

基本方針2 交通弱者である高齢者や子供等の「おでかけ」を支える交通体系の構築

- 目標2-1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す
- 目標2-2 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す

基本方針3 新たな需要を創り出す「わかりやすく」「乗りたくなる」交通体系の構築

- 目標3-1 分かりやすい情報提供を目指す
- 目標3-2 にぎわい創出に資する公共交通サービスを目指す
- 目標3-3 みんなで育てる公共交通を目指す

■計画策定当時の課題

- 課題①：まちなかの「にぎわい拠点」へのアクセス性の向上が必要【町民の日常生活の視点】
- 課題②：高低差のある住宅エリアと商業エリアの移動しやすさの確保が必要【まちづくりの視点】
- 課題③：離半島部などの小さい需要に対応した地域公共交通の再構築が必要【効率性の視点】
- 課題④：日常生活での結びつきの強い石巻市との広域交通の維持が必要【広域連携の視点】
- 課題⑤：観光部署と連携した新たな利用拡大が必要【観光との連携の視点】
- 課題⑥：交通事業者の事業環境を踏まえた運行形態の見直しが必要【運行・運営の視点】
- 課題⑦：分かりやすい情報提供や利用しやすい運賃体系が必要【利用環境の視点】
- 課題⑧：持続可能な公共交通網の構築が必要【持続可能性の視点】

■施策の実施状況

施策1：公共交通網の再編・見直し

- ・町民バスのまちなか路線を刷新し、目的施設間のサービス水準を大幅に増加
- ・半島部から乗り継ぎ無しで目的施設アクセス可能な公共交通を実現
- ・利用の多いJRの便との乗り継ぎ利便性を考慮して町民バスのダイヤを設定
- ・JRやミヤコーバスについては、交通事業者や石巻市など関係者と協力・調整を図ってきた

施策2：分かりやすい情報提供

- ・分かりやすさに配慮して具体的な利用イメージを掲載した「町民バスガイドブック」を制作・更新

施策3：利用しやすい環境づくり

- ・回数券や定期券など企画乗車券を拡充し、利用しやすい運賃施策を実現

施策4：利用促進等の取り組み

- ・歩行領域EVの実証試験や小中学生向けのモビリティ授業などを企画・実施
- ・EV車両を活用した観光振興や防災などとの取組みを検討

施策5：公共交通を考える場の組織づくり

- ・交通事業者と行政等で構成する「女川町民バス連絡調整会議」の立ち上げ

■社会経済情勢等の変化

- ・少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会の到来
- ・JR赤字路線の増加
- ・ドライバー等の人材不足や燃料費の高騰
- ・ICTなどの技術革新の進展（国・宮城県におけるDX推進）
- ・感染症流行の影響

■指標の達成状況 ※詳細はP2を参照

表 指標の達成状況

	指標	従前値 (計画策定時)	目標値	現状値
1	生活軸の運行本数 ※女川駅からスーパーおんまえやの区間	28本/日 (2018年度)	33本/日 (2023年度) 【増加目標】	52本/日 (2023年度)
2	町民バスのJRとの接続割合	85.7% (2018年度)	90% (2023年度) 【増加目標】	43.0% (2023年度)
3	半島部における町民バスの利便性 (町民アンケート)	五部浦地区：13.6% 北浦地区：19.0% (2018年度)	25.0% (2022年度) 【増加目標】	※今年度町民アンケート調査実施
4	町民一人当たりの町民バスの利用回数	2.1回/人 (2018年度推計)	2.7回/人 (2022年度) 【増加目標】	3.9回/人 (2022年度)
5	JR及びミヤコーバスの利用者数	110,158人/年 (2017年度)	110,000人/年 (2022年度) 【現状維持】	86,104人/年 (2022年度)
6	路線図や時刻表の分かりやすさ (利用者アンケート)	24.7% (2017年度)	35.0% (2023年度) 【増加目標】	※今年度町民アンケート調査実施
7	イベント等の開催実績(累計)	— (2018年度)	5回 (2023年度まで) 【増加目標】	16回 (2023年度まで)
8	住民参加の回数(累計)	— (2018年度)	3回 (2023年度まで) 【増加目標】	0回 (2023年度まで)

■現計画の評価検証

【町民の日常生活の視点】

- ・まちなかの路線を再編し、運行本数の増便やバス停の増設・移設などによりサービス水準を大幅に向上したことでまちなかの回遊性が向上した
- ・まちなかの路線が「住宅エリア」と「商業エリア」をカバーすることで、高台住宅の住民の利便性が向上した

【まちづくりの視点】

- ・公共交通を利用して一度の外出で複数の用事を済ませられることにより、安心して住み続けられるまちづくりに寄与した
- ・公共交通での外出先が増えて、買い物や娯楽・レジャー等の外出目的・活動が増加したことにより、まちの賑わいや経済循環の強化に寄与した
- ・町民（特に高齢者）の外出が増加することにより、健康的なまちづくりに寄与した

【効率性の視点】

- ・半島部の道路整備などに伴い道路環境は改善している。一方で、従来の定時定路線の運行を継続しており、抜本的な改善には至っていない

【広域連携の視点】

- ・各種関係者と協力・調整しつつ、JRやミヤコーバスの維持・活性化を図ってきたものの、コロナ禍の影響などで利用者が大幅に減少

【観光との連携の視点】

- ・コロナ禍の影響で観光需要が激減し、来訪者の公共交通利用拡大には至っていない（想定）

【運行・運営の視点】

- ・ドライバー等の人材不足や燃料費の高騰などにより、交通事業者の経営環境は厳しさが増している

【利用環境の視点】

- ・「町民バスガイドブック」やバス停盤面のデザインを統一し、情報提供の分かりやすさを改善できた
- ・町が主体に公共交通に関するイベント等を実施し、賑わいの創出に寄与した

【持続可能性の視点】

- ・まちなかの町民バスのサービス水準を向上し、町民バスの利用が増加した
- ・交通事業者と行政等で構成する「女川町民バス連絡調整会議」を継続的に開催している

現計画（女川町地域公共交通網形成計画）の評価検証について

[参考]

女川町地域公共交通網形成計画で設定した指標および数値目標の評価値を整理・把握した。

※2022年の数値については、計測時点（2023年6月時点）での最新値となる。次年度以降モニタリングを実施予定である。

表 指標の達成状況

目標	NO	指標	データの出典	数値の計測方法	従前値 (計画策定時)	目標値	現状値
目標1-1 にぎわい拠点内に複数の路線が乗り入れた「生活軸」の形成を目指す	1	生活軸の運行本数 ※女川駅からスーパーおんまえやの区間	町民バス及びミヤコーバスの路線図及び時刻表	・路線図及び時刻表を用いて生活軸の運行本数を把握する	28本/日 (2018年度)	33本/日 (2023年度) 【増加目標】	52本/日 (2023年度)
目標1-2 拠点に位置付けるJR女川駅等での乗継利便性の強化を目指す	2	町民バスのJRとの接続割合	町民バス及びJRの路線図及び時刻表	・JRと30分以内で接続している町民バスの割合を把握する	85.7% (2018年度)	90% (2023年度) 【増加目標】	43.0% (2023年度)
目標1-3 少ない需要に見合った利用しやすい新たな地域公共交通の導入を目指す	3	半島部における町民バスの利便性（町民アンケート）	町民アンケートの調査結果	・地域の公共交通の利便性（5段階評価）を把握する ・便利、どちらかと言えば便利、どちらとも言えない、やや不便、不便のうち「便利」+「どちらかと言えば便利」の割合を算出する	五部浦地区：13.6% 北浦地区：19.0% (2018年度)	25.0% (2022年度) 【増加目標】	※今年度実施する町民アンケート調査結果より把握する
目標2-1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す	4	町民一人当たりの町民バスの利用回数	交通事業者からの運行実績	・年間の利用者数を人口（住民基本台帳）で除した値を把握する	2.1回/人 (2018年度推計)	2.7回/人 (2022年度) 【増加目標】	3.9回/人 (2022年度)
目標2-2 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す	5	JR及びミヤコーバスの利用者数	JR及びミヤコーバスの所有資料	・JR石巻線及びミヤコーバス女川線の年間の利用者数を把握する	110,158人/年 〔JR：81,030人/年 ミヤコーバス：29,128人/年 (2017年度)〕	110,000人/年 (2022年度) 【現状維持】	86,104人/年 〔JR：59,495人/年 ミヤコーバス：26,609人/年 (2022年度)〕
目標3-1 分かりやすい情報提供を目指す	6	路線図や時刻表の分かりやすさ（利用者アンケート）	利用者アンケートの調査結果	・路線図や時刻表の分かりやすさ（5段階評価）を把握する ・良い、やや良い、どちらとも言えない、やや不満、不満のうち「良い」+「やや良い」の割合を算出する	24.7% (2017年度)	35.0% (2023年度) 【増加目標】	※今年度実施する町民アンケート調査結果より把握する
目標3-2 にぎわい創出に資する公共交通サービスを目指す	7	イベント等の開催実績（累計）	担当課への照会	・公共交通の利用促進に関するイベント（バスの乗り方教室、モビリティマネジメントなど）の実施状況を把握する	— (2018年度)	5回 (2023年度まで) 【増加目標】	16回 (2023年度まで)
目標3-3 みんなで育てる公共交通を目指す	8	住民参加の回数（累計）	担当課への照会	・公共交通に関する地域懇談会等の住民・地域団体等を交えた取り組み状況を把握する	— (2018年度)	3回 (2023年度まで) 【増加目標】	0回 (2023年度まで)